

「マジェスティック・プリンセス」が北九州港に初寄港しました！

平成29年7月21日（金）午前8時、ひびきコンテナターミナルにプリンセス・クルーズ社のクルーズ船「マジェスティック・プリンセス」が初寄港しました。白い船体に鮮やかな青色で、海の女神と波をモチーフにしたデザインが描かれ、とてもエレガントな外観でした。同船は、今年の4月にデビューしたばかりの新造船で、7月からは、通年で上海発着クルーズを運航しています。

岸壁には、観光バス105台がずらりと並び、約4,200名の乗客を乗せて市内観光に出発しました。乗客たちは、関門海峡の美しい景観を楽しみ、門司港レトロでのショッピングや小倉城周辺の散策等を満喫しました。船内で行われた歓迎式典には、北橋市長をはじめ関係者が出席。小倉城が描かれたスチールアートの記念盾や日本人形、伝統ある小倉織の扇子を贈呈し、プリンセス・クルーズ社のクルーズ船初寄港を歓迎しました。式典後の関係者向け船内見学では、ブリッジや最上階のデッキから8.5メートル海上に張り出したガラス張りの通路「シー・ウォーク」等を見学。海面から39メートルの高さから眺める景色はスリル満点でした。

また、クルー向けのおもてなしツアーには78名が参加しました。今回は、若松恵比須神社で忠臣蔵の装束の試着体験や地元の呉服店による和小物の販売を実施し、その様子をテレビ局が取材に来ていました。クルーたちは兜や刀などの小物を身に付け、神社や鳥居をバックに記念撮影などを満喫しました。南海岸通りでは、ソフトクリームやクロワッサンのショッピングを楽しみ、真っ赤な若戸大橋を写真におさめていました。

出港は午後6時30分。北九州市立大学吹奏楽団の皆さんが中国語で挨拶や曲目紹介を行い、ディズニーやジブリのメロデーを披露しました。お見送りコンサートが終わると、汽笛でメロディーを奏でる素敵なお返しがあり、感動的な出港風景となりました。



「マジェスティック・プリンセス」 全長：330m 総トン数：143,700 t



スリル満点のガラス張り通路「シー・ウォーク」



オプションツアーのテレビ取材で若松の魅力を語るクルーたち



北九州市立大学吹奏楽団によるお見送り演奏